



感じて動く ～ Feel & Move ～

目指す児童像：かしこさいっぱい やさしさいっぱい たくまさいっぱい

三城小学校 学校だより

R6.10.28 第9号

校長 田中康隆

三城小学校十の掟プロジェクト！

少しずつ秋めいた気候になってきました。実りの秋は、小体祭(6年生)、修学旅行や見学旅行、創立80周年行事、PTA や地域の行事等々子供たちの学習活動も充実期に入っています。

さて、10月15日から11月1日まで、三城小学校では運営委員会の子供たちを中心に、「十の掟プロジェクト」が行われています。「十の掟」とは、今から10年ほど前に「人として大切なこと」、「子供たちに身に付け欲しいこと」を10個にまとめ、掲げたものです。「うそをつかない」で始まる十の掟は、当時の子供たちと先生たちと一緒に考えられたものだと思っています。現在も校門のところに掲示板が設置されているのでご存知の方も多と思います。



3週にわたり、自己評価をしながら意識をして過ごす時間をつくることで定着を図るものです。肯定的な評価80%の学級も増えてきました。今週が最後の週になります。

いつの時代も、人として大切なことは不変です。三城小学校の伝統の1つとしてしっかりと受け継いでいきたいと思えます。

10月25日(金) 大村空襲集会を開きました。

集会の冒頭、私からは以下の話をしました。

80年前、1944年10月25日の午前10時ごろ、アメリカの戦闘機(B29)78機が大村市の上空に現れ、たくさんの爆弾を落としました。大村の町は一瞬にして火の海と化しました。この空襲で、当時アジアと言われていた飛行機工場で働いていた学生も含め、約300名の方が亡くなり、約400名の方がケガをして苦しんだそうです。

突然、自分の命が亡くなる、大切な人が命を落とす、隣の人がいなくなる。想像したことがありますか。大きなけがをして血を流しながら、誰かが見つけてくれるまで長い時間を過ごすことができますか。手当の順番を待つことができますか。戦争を経験してきたほとんどの人たちは、そのようなつらい経験をされているはずで。私たちは、この節目となる日に当時の人たちの痛みや思いを想像し、学び、同じ過ちを繰り返さないように自分の後の世を引き継ぐ人たちに語り継ぐ義務があります。

戦争に学ぶことは、「人の命の尊さ」につきます。

これからどんなに努力しても、戦争で亡くなった多くの命、苦しめられた時間が戻ってくるわけではありません。しかし、他人の命も自分の命も大切にできる人があふれる世の中をつくる、未来をつくることはできます。今日の集会での学びを、その機会にしてください。

その後、詳細について担当から話をしました。

私の母も、私が子どもの頃よく原爆が長崎に落ちた時のことや戦時中のことを話してくれました。子供ながらに「戦争は怖い」、「悲しい」、「してはいけない」という思いをもつことができました。しかし、今、戦争を経験した人たちが、高齢化の中で減っているという話を聞きます。悲しい歴史を風化させてしまわぬよう、大人の責任として語り継いでいきたいと思えます。

保護者の皆様も、戦争を経験された年代ではないと思いますが、テレビ(動画)や図書館、資料館などを利用したり、今回の集会のことを話題にしたりして、ご家庭でも、戦争について考えていただければと思います。